

まきよう通信 2014. 春号

Kobe Pharmaceutical University Press Vol.158

[特集]神戸薬科大学の「チーム医療教育」 前編

“他流”に学ぶ

まきよう便り 水野 成人 教授

研究紹介 連載第3回

「疾患糖鎖生物学に基づく革新的治療薬の開発」
～薬品化学研究室～

研究室探訪

生命分析化学研究室 / 病態生化学研究室

神薬ごよみ 〈MANABI 白書・Event Report・Information〉

OKAMOTO MAP

「薬剤師」を鍛える生涯学習支援が充実 エクステンションセンター

表紙探訪:神戸薬科大学入学式



神戸薬科大学

KOBE PHARMACEUTICAL UNIVERSITY



ききょう
便利

社会に開かれた大学院を目指して

薬学部が6年制に移行したのに伴って新設した大学院薬学研究科薬学専攻博士課程(4年制)は、この春で設置から2年が経過しました。募集定員3名のところ、開設1年目に6名(うち社会人2名)、2年目に6名(同2名)、3年目に2名(同1名)の大学院生を迎え入れ、定員という面ではほぼ順調なスタートを切れたものと思います。毎年度行われる総説講演では、大学院生は自身の研究に関連する最近の動向と研究の進捗について報告しています。ここでは多くの質疑応答がなされ、幅広い観点から研究課題に取り組む姿勢を養う機会になっています。

これからの先進的なチーム医療を担うスタッフとして、博士の学位を持つ医師、修士の学位を持つ看護師などと対等に専門性を発揮できる科学的思考力、薬物の作用や動態に関する深い知識、臨床統計やEBMの応用力を身につけた、高度臨床薬剤師の存在が不可欠と考えます。そこで2014年度の大学院生の所属するコースをみると、大部分が「創薬・育薬コース」を選択していることがわかります。2013年度から開設した、文部科学省事業「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」に基づく「がん専門薬剤師基盤育成コース」も含め、「臨床薬学コース」への入学者を増やす方策を検討中です。例えば、臨床業務や臨床研究に直接的に役立つカリキュラムの充実、社会人大学院生に対してはeラーニングなど履修しやすい環境の構築、大学と病院の連携協定などによる共同研究の推進など、多くの課題に取り組んでいく必要があると感じています。

よりアクティビティが高く、より社会に開かれた大学院になるために、これからも改善に努めていく所存です。皆様のご意見をお聞かせいただきたいと思います。



大学院薬学研究科主幹
医療薬学研究室

水野 成人 教授

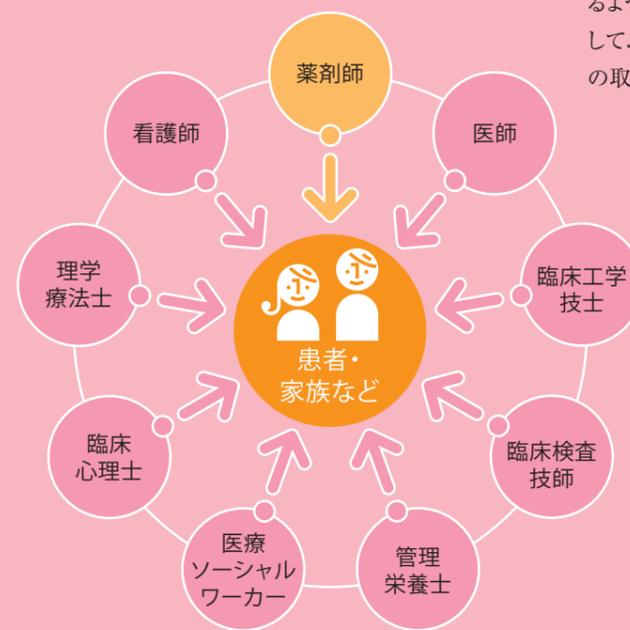
〔特集〕神戸薬科大学の「チーム医療教育」 前編

“他流”に学ぶ

医療技術の進展とともに薬物療法も高度化しており、「薬のプロフェッショナル」である薬剤師が、専門性を生かした「チーム医療」の一員として、治療やケアを行うことは、安全・安心な医療を求める社会の声にこたえることにほかなりません。

本学は、さまざまな大学・医療機関との協働による「チーム医療」の実践を担う、学部生・院生、薬剤師の教育を積極的に行っています。

ここでは、学部の取り組みを2回に分けて特集します。医療系・薬学系の学生や医師など多職種の方に触れ、「チーム医療」の実際を体験することにより、主体性と意欲を持って学習に取り組めるよう設定した演習を紹介し、将来の医療の担い手としてふさわしい、質の高い薬剤師の養成を目指す本学の取り組みをご報告いたします。



チーム医療

チーム医療とは、一人の患者に対して、医師と共に複数の医療専門職(コメディカル)が連携して治療やケアを行うことです。チームの一員として治療に参加するすべての医療専門職が、互いに尊重しながら、それぞれの専門性を発揮して、患者・当事者などの「Well-being」に貢献します。

Well-being …… 身体的、精神的、社会的に良好な状態にあること
※上記の職種は一例です。

Vol.158 contents

- 1 ききょう便利 水野 成人 教授
- 2 特集 神戸薬科大学の「チーム医療教育」前編 “他流”に学ぶ
- 5 研究紹介 連載第3回 「疾患糖鎖生物学に基づく革新的治療薬の開発」～薬品化学研究室～
- 7 研究室探訪 生命分析化学研究室/病態生化学研究室
- 9 神薬ごよみ(MANABI白書)
- 11 神薬ごよみ(Event Report)
- 13 神薬ごよみ(Information)
- 14 研究機器紹介(質量分析装置(中央分析室))
- 15 OKAMOTO MAP
- 17 部活動レポート 水泳部/生薬部
- 19 大学生生活ニュース
- 21 「薬剤師」を鍛える エクステンションセンター
- 22 表紙探訪 神戸薬科大学入学式/学生支援センター 学生就職課より

“他流”に学ぶ

医薬共同による創薬・育薬を担う 医療人の育成を通じた 神戸薬科大学・神戸大学の連携

「医薬共同による創薬・育薬を担う医療人の育成を通じた私立・国立大学間の連携」を掲げ、2007年、神戸大学と連携協定を締結しました。翌年、相互の学部・大学院間^{※1}の単位互換協定を結ぶなど、多様な連携活動を展開しています。

その中に、学部生が参加する「初期体験臨床実習」「IPW(多職種間医療人協働・Interprofessional Work)演習」があります。医師や看護師、理学療法士などを目指す神戸大学医学部の学生と共に医療現場を体験し、相互理解を深めながら、学生の視点で「チーム医療」の考え方を学ぶことを期待する、本学ならではの科目です。

※1……学部(神戸大学医学部と神戸薬科大学薬学部)と大学院(神戸大学医学研究科と神戸薬科大学薬学研究科)



班別発表

連携科目 初期体験臨床実習 [1年生(選択科目)]

1年生が入学時に抱えている興味、モチベーションの維持と勉学意欲の向上を目的として、実施しています。専攻の異なる両大学生は、混成チームの一員として相互交流を図り、医療の実践現場のスタッフから学ぶとともに、学びを共有し、今後の学習に対する意欲や主体性を強化します。また、チーム医療の実際を知り、多職種間医療人協働(IPW)の重要性を認識します。

実習内容の例

- チームビルディング演習
- 病院医療現場見学(3日間)
- スモールグループディスカッション(SGD)
- レポートのまとめ・班別発表会

連携科目 IPW 演習 [5年生:後期(選択科目)]

IPW演習は、専門領域の異なる学生メンバー間で目標を共有し、ディスカッションを行い、問題解決の過程を体験的に学習します。重要なのは、自己に気付き、他者を尊重し理解しようとする「関心」を持つことです。グループ間の積極的なかわりから学びや相互理解を深め、チームで協働することの意義を理解することを目指します(演習期間5日間)。

IPW チュートリアル

- 薬大生(5年生)、神戸大学医学部医学科・保健学科(4年生)のグループワーク。
- 複数の職種を目指す学生が一つのシナリオに従い、ケアを考える。
- 症例に対する各職種の立場からの意見をまとめ、シナリオに集約。
- 学生が主体となる能動的参加型授業・問題準拠学習(課題探究型学習)。

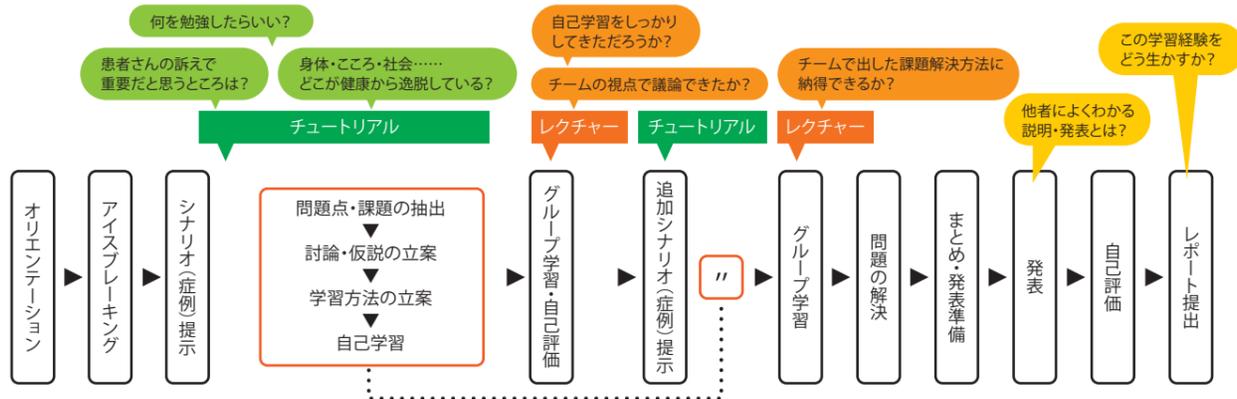
症例

糖尿病と診断された商社の営業職の男性。各種指標の改善が見られず、治療に不信。腎症・糖尿病性足壊瘍発症。

各職種の立場からの意見

- 医師：今回の入院目的と治療、退院目標は？
- 検査技師：検査値と疾患の因果関係や、値が変化する意味は？
- 理学療法・作業療法士：疾患悪化の原因となる環境要因と改善策は？
- 看護師：患者は自分の疾患をどう捉えているか、生活面の問題は？
- 薬剤師：薬物治療を成功させる因子、失敗させる因子の評価は？

症例の課題に取り組みながら同時に多職種連携・協働について意識しチームの視点で解決策を導く



チーム医療の第一歩 神戸大学と神戸薬科大学との協働

共に学ぶことから始まる「チーム医療」

自学の中だけではなかなかわからない他の医療職の考え方や、どのような職務を担っているか、また患者のケアに対する姿勢などを学んでほしいと思います。同じ治療を実践する場合でも、それぞれの職種でかわり方や視点が違います。チーム医療を実践するための基本は相互理解ですから、まずは共に学ぶことからのスタートは、学生として入っていきやすいでしょう。

消極的な1年生。リーダーシップを発揮する5年生

1年生の「初期体験臨床実習」の時は、アウエー感のためか、薬大生は少し消極的な印象がありますが、「IPW演習」では、病院実習を経験している学生が多いので、薬物治療に関しては積極的にリーダーシップをとっている様子です。終了後の感想も、薬大生からは極めて好意的なものが寄せられており、よい勉強の機会になり、モチベーションも高まっているようです。

考え続け、行動し続け、感謝し続けていくことで見えてくる、これからの薬剤師の役割

患者さんの薬物治療に責任を持つのが薬剤師です。責任を持つことを過大に捉えることはありません。直面する事象に真摯に向き合い、自分にできる精一杯のことをするだけです。人間は周囲に助けられ、また助けながら生きていくものです。その原則を理解していれば、コミュニケーションのあり方について、考え続け、行動し続け、感謝し続けていくことでよいでしょう。このような動的な役割を果たしていく、という覚悟を持てば、自ずと果たすべき役割が見えてくると思います。



神戸大学医学部 内科系講座薬剤学分野
平井 みどり 教授

プロフィール

1995年3月まで、京都大学附属病院薬剤部に研究主体の活動を行い、同年4月から2007年3月まで、神戸薬科大学教授。同年3月半ばから母校である神戸大学附属病院薬剤部に着任。「医療現場・薬剤師活動の変化の激しさに驚きながら、刺激に満ちた毎日を送っています」

私が社会でいちばん貢献できる形で活躍したい

学生インタビュー

他職種の方からも信頼され頼られる病院薬剤師を目指す

初期体験臨床実習に参加

実習前は、患者さんに最善の治療するために「チーム医療」があると思っていました。しかし実習を通して患者さんを「大切な一人の人」と捉え、人として何をされたらうれしいかを考えて、それを医療として提供することが、今の「医療現場」に求められているものと学びました。また「チーム医療」は団体スポーツのようだとも思いました。チームにかかわる全員が自分の専門分野に責任を持ち、連携して最善の医療を施し、患者さんのQOL(生活の質)を高めていくからです。神大の医学部生と活発に意見交換ができたこともあり、価値観が変わった、実りの多い実習でした。

2年生 末弘 結香里さん

IPW 演習に参加

他職種の医療従事者を目指す神大生と共に学ぶことで、薬学的な発想にとられがち自分の視野を広げられると思い参加しました。演習プリント(シナリオ)は読み込むほど疑問点が浮かび、それをチームでディスカッションできたことは、勉強になったと同時に、自己の学習を見直す機会にもなりました。患者さんへアプローチするポイントは職種によって違いますが、「患者さんにとってより良い医療を提供すること」は共通しており、今以上に多職種同士が連携できれば、提供できる医療の質の向上と迅速な対応が可能になると感じました。薬剤師の観点から連携の橋渡しをしていけたらと考えています。

6年生 橋本 昂介さん

文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

疾患糖鎖生物学に基づく革新的治療薬の開発

神戸薬科大学は、優秀な薬剤師を養成する歴史ある大学であるとともに、高い水準の基礎研究活動を活発に行ってきました。基礎研究への取り組みが評価された一例として、2012年度より採択された「文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業-疾患糖鎖生物学に基づく革新的治療薬の開発-」を4回に分けて紹介しています。今回はその3回目です。

薬品化学研究室 宮田 興子 教授

「環境にやさしい合成手法の開発」「新しい医薬品シード化合物の創製」をキーワードに、上田昌史准教授、武田紀彦助教^{*1}、博士課程の大学院生および配属学部学生と一丸になって創薬の基礎的研究に取り組んでいます。

薬品化学研究室内のミッション「有機合成力」で疾患糖鎖のケミカルバイオロジーに挑む

薬品化学研究室が取り組んでいるのは、疾患糖鎖と動脈硬化症の関係を解明するためのツールの開発研究(臨床薬学研究室との共同プロジェクト)と糖鎖合成を調節する化合物の探索研究(生化学研究室との共同プロジェクト)です。

薬品化学研究室はこれまでの研究の成果として数百種類の化合物をライブラリーとして保有しています。また環境にやさしい合成手法を追求するなかで蓄えてきた、豊富な合理的合成手法のノウハウがあります。化学的な基礎研究のバックグラウンドを3つの研究室と共有しながら糖鎖と病気の謎解明に近づこうとしています。

^{*1}……2014年3月31日までは、三好哲也助手が本プロジェクトに参加していました。

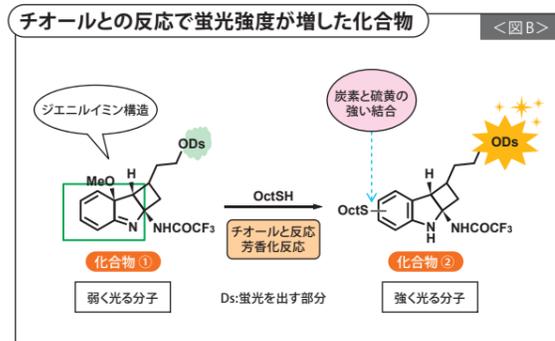
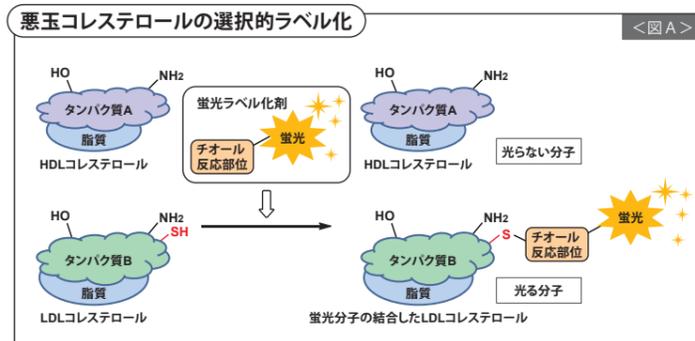
悪玉コレステロールを選択的にラベル化する蛍光試薬の開発研究

チオール(SH)は生体内においてタンパク質を構成するアミノ酸の中でシステインにのみ含まれています。そのため、チオールとのみ反応できる分子は、「システインを含まないタンパク質A」と「システインを含むタンパク質B」とを識別することができます。例えば、悪玉コレステロールのLDLと善玉コレステロールのHDLを比較すると、LDLにはシステインを含むタンパク質があり、HDLにはありません。よって、チオールだけに反応する試薬を使えば、両者のうち動脈硬化の原因となるLDLコレステロールだけを識別できるため、これをツールとして動脈硬化症発症の原因を解明できると考えられます。(図A)

このような考えのもと、当研究室では、チオールのみを選択して結合し発光する「蛍光ラベル化剤」の開発研究を行っています。

チオールの蛍光ラベル化剤には、アルコールやアミンなど他の化合物が存在する中で、チオールだけに反応し、強固な結合を形成する性質が求められます。我々は、独自の手法で開発したジェニルイミン構造の「化合物①」が、チオールと反応し芳香化することで、非常に強固な炭素-硫黄結合を形成した「化合物②」が得られることを見出しました(図B)。このような手法でチオールを捕捉したのは、我々が世界で初めてです。

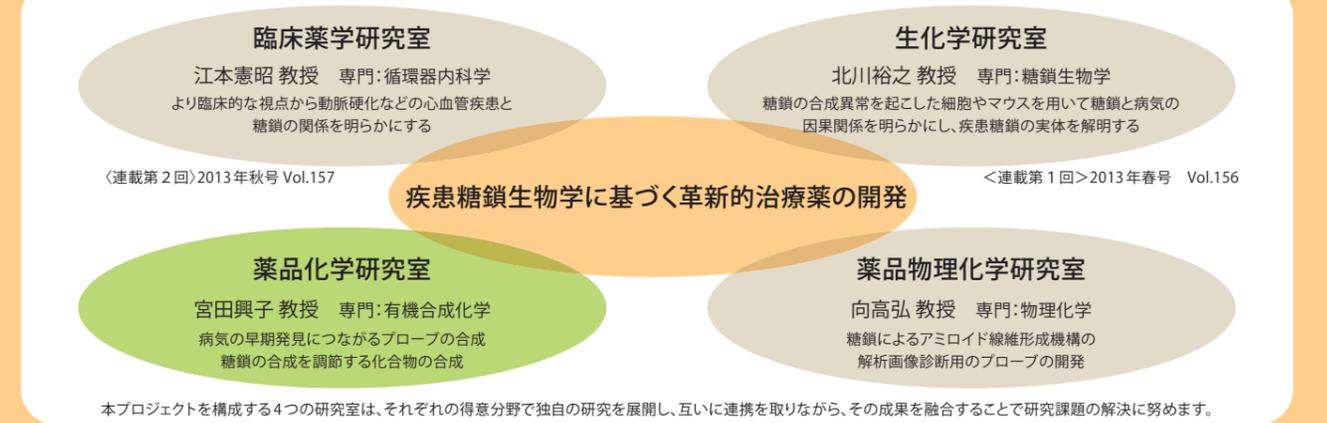
また、「化合物①」と「化合物②」の蛍光スペクトルを測定したところ、①よりも②の方が、蛍光強度がより強くなることもわかりました。今後は「化合物①」の最適化を行い、実際にLDLと結合させ動脈硬化症発症解明のツールとしての評価を行う予定です。



プロジェクトの目標

本プロジェクトの目標は、病気になるとつくられる異常な糖鎖(疾患糖鎖)が病気の原因である可能性や生活習慣病などの病気を発症させる背景になっている可能性を示すことです。「糖鎖疾患」という病気の新しいカテゴリーを構築し、このような疾患に共通する分子基盤を発見していくことで、疾患糖鎖が新規治療薬の標的となる可能性を基礎研究レベルで示すことを目指しています。

プロジェクト組織図

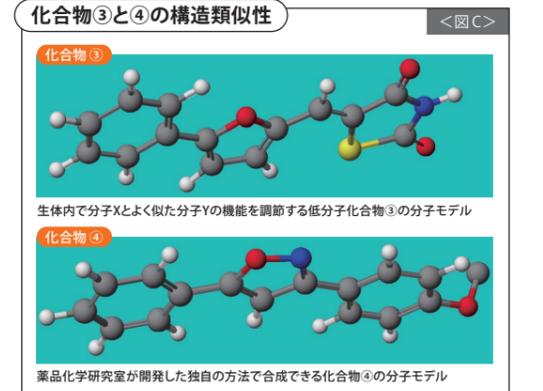


糖鎖合成を調節する化合物の探索研究

細胞表面は「糖鎖」で覆われており、この「糖鎖」が正常に合成されなければ病気の原因となることが予想されます^{*2}。すでに糖鎖合成は分子Xによって調節されていることが生化学研究室によって見出されています。我々は、この分子Xの機能を調節する低分子化合物の探索研究を行うことで、糖鎖の合成異常の原因を解明するとともに疾患糖鎖の新規治療薬の開発研究を行っています。

生体内の機能を調節する低分子化合物(医薬品も含む)には、「複素環構造の骨格を活性中心とする」ものが多いことが知られています。例えば、分子Xと類似の構造を持つ分子Yの機能を調節する低分子「化合物③」の中にも複素環構造が含まれています(図C上段)。我々は独自の手法で「化合物③」と類似の構造を持つ「化合物④」(図C下段)を開発しており、これを足がかりに、糖鎖合成を調節する化合物の探索研究を行っています。

^{*2}……詳細は「ききょう通信157号」で紹介しています。



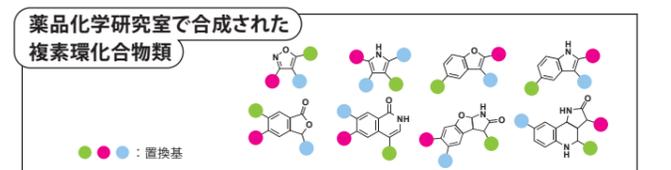
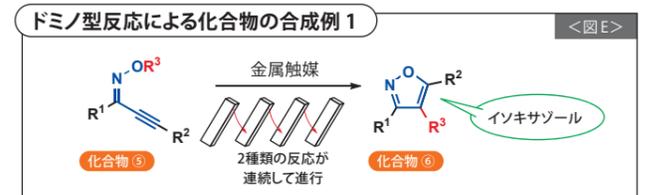
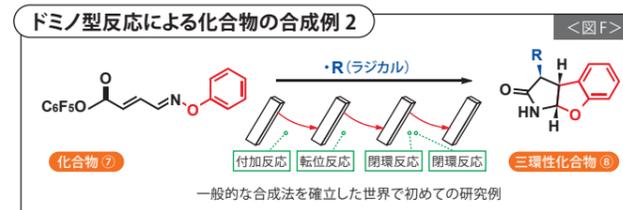
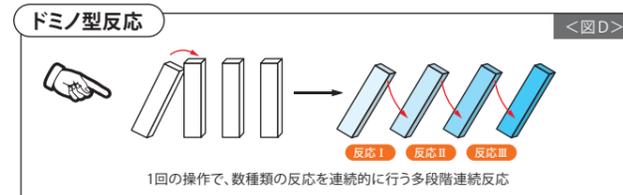
化合物合成を加速するドミノ型反応

次に我々が複素環化合物合成に用いている手法「ドミノ型反応」を紹介いたします。ドミノ型反応は、段階的に結合をつくっていく従来法とは異なり、ドミノ倒しのように、初めの反応[反応I]を起こせば、数種類の反応[II, III]が次々と連続して進行する反応です。(図D)。この手法を用いれば、一回の操作で複数の結合を作ることができるため、単純な化合物から複雑な化合物を一挙に合成できます。

具体例を挙げると、「鎖状化合物⑤」を金属触媒と反応させると、2種類の反応が連続して進行し、多くの医薬品に含まれるイソキサゾール骨格を持つ

「化合物⑥」が合成できます(図E)。また、「化合物⑦」をラジカル反応条件で処理するとドミノ型反応が進行し、「三環性化合物⑧」が合成できます(図F)。これは4種類の反応が一挙に進行するとても効率の良い反応であり、また、「三環性化合物⑧」の一般的な合成法を確立した世界で初めての研究例です。

このように当研究室では、単に既知の反応を組み合わせるだけでなく、新規反応をドミノ型反応に組み込むことで、オリジナリティの高い多官能性複素環化合物の合成に成功しています。ここで合成された化合物は生化学研究室にて選別し、分子Xの機能を調節するシード化合物の探索を行っています。



▶▶ 次回は「薬品物理化学研究室」の研究内容を紹介します。

研究室探訪



生体の分子認識能を活かした高性能バイオ分析法の開発研究に取り組んでいます。

生命分析化学研究室

[スタッフ] 小林 典裕 教授 大山 浩之 助教 森田 いずみ 助手
[学 生] 5年生:15名 6年生:16名



研究テーマは?

生体内で起こる免疫反応の分子認識能を活かした高性能分析法を開発しています。特に遺伝子操作を駆使した「人工抗体」の創出と応用に力を注ぎ、他大学の分析研究室とは違う、特色のあるバイオ分析研究を目指しています。

現在取り組んでいる研究内容は?

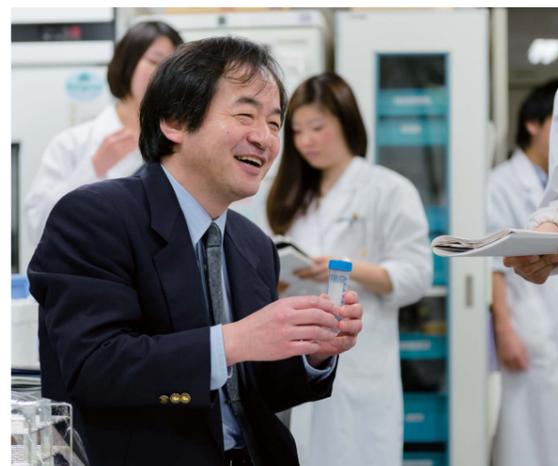
病原体や異物を除くために生体が産生する抗体は、「鍵と鍵穴」の精密さで特定の化学構造を認識して強く結合するため、分析手段としても役立ちます。私たちは、免疫学、分子生物学、生化学、有機化学の知識と技術を基盤として優れた抗体を作製し、実用的な分析法を開発しています。主な分析対象は病態の診断や環境保全のためのマーカー物質ですが、最近、乱用が問題となる不正薬物にも着手しました。

研究室での学生たちは?

5・6年生計31名が、職員のマンツーマン指導のもと各自の研究テーマに意欲的に取り組んでいます。集中とリラックスのけじめを大切にしていますが、折々のレクリエーションも華やかです。

研究活動によって学生に期待することは?

研究室生活を楽しみながら、論理的な思考力と問題発見能力/解決能力を養ってほしい。そのうえで「小さくても確かな進歩」を達成した充実感を味わってもらえたら最高です。



小林 典裕 教授



名古屋港水族館にて

ゼミ旅行へ行ってきました

恒例のゼミ旅行は、4月5日・6日と名古屋へ行きました。科学館、水族館などを観光し、湯のみの絵付けも体験。ランチは名物「ひつまぶし」を堪能。夜は大宴会で盛り上がりました。

本学には17の薬学専門研究室があります。どのような研究を行っているのかはもちろん、研究室の雰囲気や、学生たちが生き生きと学ぶ様子を楽しくお伝えします。

摂食関連疾患の新規検査法や治療薬を開発しています。

病態生化学研究室

[スタッフ] 加藤 郁夫 教授 多河 典子 講師 藤波 綾 講師
[学 生] 5年生:15名 6年生:10名



研究テーマは?

食欲は、摂食制御中枢である脳の視床下部と、摂食活動やエネルギー代謝を担う末梢臓器間のクロストークにより、複雑かつ巧妙に調節されており、その破綻が肥満や痩せの原因となっています。私たちの研究室では、食欲調節ホルモンと病態の関連を解析し、摂食関連疾患の新規検査法や治療薬の開発を目指しています。

現在取り組んでいる研究内容は?

本研究の根幹となる、新規エネルギー代謝ホルモンのELISA(免疫測定法:抗体と酵素を使った測定法の一つ)の確立に必須である、高純度免疫抗原と標識抗原の化学合成を行い、特異抗血清を作成し、高感度のELISAを確立しています。学生たちの研究成果は、薬学会などで発表します。

研究室での学生たちは?

年1回のゼミ旅行(今年は「こんびらさん」にお参りし、うどん作りにトライしました)のほか、毎月(?)恒例のお誕生会、暑気払い大宴会、掃除大会、バーベキューなど遊びにも懸命な学生たちです。

研究活動によって学生に期待することは?

挨拶と4S(整理・整頓・清潔・スピード)を研究室のモットーとして、当たり前のことが当たり前のように指導しています。研究活動により、「モノ」を扱うことの大事さや、その責任の重さを知り、人間性豊かで幅広い教養を身につけた薬剤師になってほしいと思います。また、その中で一生忘れることができないような感動も経験してほしいです。



加藤 郁夫 教授



「こんびらさん」で6年生の国試合格祈願

ゼミ旅行へ行ってきました

今年のゼミ旅行は、4月12日・13日と香川へ。「こんびらさん」に登ったり栗林公園を散策したりとアクティブに活動。ほかにも「さぬきうどん」の手打ちも体験しました。

神薬ごよみ

キャンパスカレンダー(学年暦)と併せて、学内の今、そして、これからの取り組みを3つのコンテンツでお届けします。

MANABI白書

半期における各学年の学習や
実習報告をお伝えします。

Event Report

半期の主な学内イベントを
ご報告します。

Information

今後の行事を中心に、
学内外のニュースをお伝えします。

MANABI白書

2013年度 後期の学習報告

2年生

「薬理学」の授業で、薬学を学んでいることを実感

2年生になり専門科目が増えてきました。八巻先生の「薬理学」の授業は、具体的な薬物の名称が出てきて、体のどこの部分でどのような働きをするのかを学ぶため、薬学を学んでいると強く感じます。

また、「放射化学」の授業は、先の地震・津波によって起こった原発事故がきっかけで興味を持ち学んでいます。授業では、放射線の種類や放射性同位元素の基本的な物理的性質を学ぶとともに、放射性医薬品の性質とその医療利用など、薬学領域における優れた活用について学びました。また、実習では実際に線量も測りました。薬学生として放射性物質の正しい知識と認識を持つ大切さも実感しています。



実習にて

同じ目標に向かって頑張り、高い意識を持って高め合える仲間、先輩がいます。先生方も親身になって教えてくださいます。アットホームでいこちのいいのは、単科大学ならではの。



3年生 栗崎 伊万里さん

4年生

薬学共用試験^{※1}を終え、長期実務実習(病院・薬局実習)へ

OSCE^{※1}の実務実習事前教育では、調剤や服薬指導を実際に行ったことで、薬剤師への夢に近づいていると実感しました。特に模擬患者さんへの服薬指導では、わかりやすく説明するにはどうすればいいのかを考えたり、自分の無意識なクセや言葉遣いを認識したりすることができました。

いよいよ実習です。情報の共有やコミュニケーションが大事だといわれていますが、具体的に現場の薬剤師がどのように周りとかかわっているのかが興味深いです。今までに得た知識が現場でどれだけ使えるか、そして今の自分に足りないものは何かを見つけてきたいと思います。



研究室にて

OSCEはとても緊張しました。CBT^{※1}の試験範囲は広く大変でしたが、予備校講師による講義があるなど、効率よく勉強できる環境を整えてくださっていることを実感しました。



5年生 相尾 友香さん

※1... 5年生で実施する長期実務実習を履修するために必要な知識、技能及び態度が備わっているかを評価する試験。
OSCE(技能・態度を評価する客観的臨床能力試験)とCBT(知識及び問題解決能力を評価する客観試験)の2種類の試験より成り立っています。

PICK UP 海外(ボストン)薬学研修プログラム・参加レポート

3・4年生



ボストンの医療現場で 薬剤師の業務に触れた2週間

4・5年生の「薬学アドバンスト教育」の選択科目として、昭和ボストン校との連携による海外薬学研修プログラムを実施しています。薬剤師業務の先進国であるアメリカで、薬剤師の職能や役割を見学・研修し、今後の進路の参考となるよう、国内外の薬剤師業務を深く理解することが目的です。本年は14名の学生が参加。2014年3月2日(日)に日本を出発、14日(金)に帰国しました。なお、本研修の報告会は、4月26日(土)に実施しました。

薬剤師の仕事・「薬」の違いを知った薬局見学

日本とアメリカの薬剤師の違いを知りたいと参加しました。アメリカには「テクニシャン」という調剤専門の職業があり、薬剤師は処方監査などに専念します。訪問した薬局(ローカルファーマシー)では、彼らの仕事を見学し、それぞれの役割を直接知ることができました。また、日本の薬(錠剤)の色は白や黄色なのに対して、アメリカでは真っ赤、真っ黒などの奇抜な色の薬がたくさんあります。飲み間違いや、調剤ミス軽減につながると思った反面、日本人は麻薬などをイメージしてしまうので、飲むのに躊躇するだろうとも思いました。

アメリカでは、薬剤師は医師に頼られる存在であり、尊敬される職業でもあります。研修を終え、アメリカの技術や知識をもっと日本で使えたらと思うとともに、将来は、薬のエキスパートとして、日本の薬剤師の地位を高められるようになりたいと思いました。

現地で英語のコミュニケーションの自己採点は「85点」。寮や施設で積極的に話しかけましたが、語彙力が乏しく、言いたいことが言い出せず悔しかった分を差し引きました。



カラフル?な錠剤



5年生 相川 みどりさん

※2 学術交流協定校の一つ。 Massachusetts College of Pharmacy & Health Sciences(マサチューセッツ薬科健康科学大学)

現地の薬学生が積極的に学ぶ姿に感銘

アメリカに永住しているおばとの会話で、アメリカの貧困層に対する医療制度について疑問を抱いたことと、ボランティア施設も訪問できるので、日本とアメリカのボランティア精神の違いも知ることができると考え参加しました。MCPHS^{※2}では、無菌製剤を行っている部屋のほか、薬局経営などのビジネスの授業も見学しました。授業では積極的に意見を述べる学生の姿に感銘を受けると同時に、日本でも、このような授業を受けてみたいと思いました。また、ガンの子どもたちが家族と生活できるボランティア施設も訪問。そこで働く方から、ボランティアに必要な「ギフト(ここではその人の特技)」や、孤独を失くすための秘策などを聞き、ボランティアの魅力を確認しました。

奨学生なので、金銭的に参加を迷いましたが、世界が広がるかと参加を決めました。在学生は、このチャンスを逃さないでほしいです。

英語のコミュニケーションの自己採点は「20点」。事前に質問を準備しましたが、返答を聞き取ることができず、状況を変えようとしても、専門用語が出てくると難しくなりました。



MCPHSの調剤室



5年生 谷口 美紀さん

6年生

第99回(2014年)「薬剤師国家試験」報告 合格者数245名は全国第5位

2014年3月1日(土)、2日(日)に実施された第99回薬剤師国家試験の合格発表が、3月31日(月)にありました。本学の合格者数245名(新卒218名)は全国第5位でした。

	受験者数	合格者数	合格率
本学	362名	245名	75.15%
本学新卒	276名	218名	78.99%
全国	12,019名	7,312名	60.84%

Event Report

学部卒業式・大学院修了式

3月14日(金)、本学にて、2013年度神戸薬科大学学部卒業式・大学院修了式を挙行いたしました。学部卒業生277人、大学院修了生4人、合わせて281人の皆さん、卒業、修了おめでとうございます。



卒業生からのメッセージ

6年間仲良くしてくれた友達へ

大学で最高の仲間に出会えました。いつも支えてくれてありがとう。これから別々の道に進むけど、ずっと変わらず笑い合っていましょ。

清水 由美子さん



在学生の皆さんへ

今のうちにいろいろなことに挑戦しよう。部活、ボランティア、アルバイトなんでも良い。視野を広く持ち、限りある学生生活を有意義に過ごして!

藤谷 佳苗さん



ソフトテニス部のみんなへ

部活も勉強面も、さまざまなおかげを助けてもらいました。みんなのおかげで楽しい大学生活を送れました。ありがとう、これからもよろしく!

田中 友紀さん



これからの私へ

終わりは次の始まり。今の自分に満足することなく、さらなる高みを目指せ!

志田 美春さん



先生、ありがとうございました

臨床薬学研究室の先生方、留学生の皆さま。研究・臨床、英語のコミュニケーションなど、たくさん教えていただき、ありがとうございました。

藤城 敬子さん



先生、大好きです

担任の畑先生、お世話になりました。大好きです。中川先生と一緒に研究ができて楽しかったです! 実習の上田先生、また遊びにいけます!

中西 文香さん



先生、感謝しています

大山先生!こんな「大ざっぱ」な私を最後まで見守り続けてくださいましたこと、本当に感謝しています。

平井 杏奈さん



6年間頑張った自分自身へ

ここから本当のスタート! やっとスタートラインに立とうとしているところ。これが本当の勝負!!

藤原 恵さん



2013~2014 主なキャンパスカレンダー

11月	4日	推薦入学試験
	9日	桔梗育友会総会/保護者懇談会
	14日	6年生:総合薬学講座 定期試験 I
	16日	全学年:第3回キャリアガイダンス
	17日	地方保護者懇談会(高松、広島、福岡)
12月	28日	4年生:第2回基礎薬学演習 演習試験
	28・29日	6年生:第3回国試模擬試験
	29日	4年生:第2回基礎薬学演習 定期試験
	8日	4年生:薬学共用試験OSCE本試験
12月	16~18日	5年生:第4~6回就職ガイダンス
	17・18日	5年生:就職フェアI・II
	19日	6年生:総合薬学講座 定期試験II
	24日	4年生:第3回基礎薬学演習 演習試験・定期試験
	27日	冬季休暇開始
1月	3日	冬季休暇終了
	6日	病院実習・薬局実習開始 (III・iv期:1/6~3/23)
	14日	4年生:第5回CBT模擬試験
	14日	6年生:総合薬学講座 定期試験III
	15・16日	4年生:薬学共用試験CBT本試験
2月	17~29日	後期定期試験・4年生:前期臨時試験
	4日	一般入学試験・前期
	7・8日	6年生:第4回国試模擬試験
	11日	一般入学試験・中期
	24日	卒業生名一覧公示
3月	24~28日	後期追再試験・4年生:前期臨時試験
	1・2日	第99回薬剤師国家試験
	2日	3・4年生:海外薬学研修(ボストン)出発 (3/2~3/14)
	9日	一般入学試験・後期
	14日	2013年度学部卒業式・大学院修了式
4月	15日	2014年度大学院博士課程 一般2次・社会人2次入学試験
	20日	1~5年生:第4回キャリアガイダンス
	2日	入学式 (P.22)
	4日	5年生:インターンシップガイダンス
	7日	前期開講日
4月	10日	5年生:第1回就職ガイダンス
	11日	6年生:病院ガイダンス
	14日	6年生:公務員ガイダンス
	14日	5年生:病院実習・薬局実習開始 (i期:4/14~7/6)
	17日	4年生:インターンシップガイダンス
	17日	6年生:第8回就職ガイダンス
	19日	第15回公開市民講座
	26日	6年生:病院実習・薬局実習報告会
	27日	4・5年生:海外薬学研修報告会
	27日	第82回創立記念日

Event Report

12月 DECEMBER

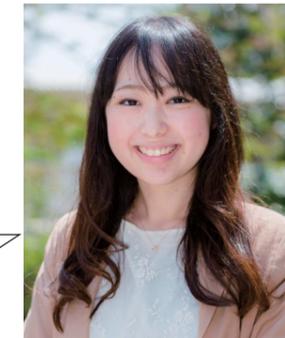
薬学共用試験 OSCE 本試験 CBT 本試験

2013年度、薬学共用試験[OSCE:2013年12月8日(日)・CBT:2014年1月15日(水)・16日(木)]を実施、4年生が受験しました。全員合格を果たし、4月14日(月)より、第1陣(i期)が病院実習・薬局実習をスタートさせました。なお、試験実施開始時から、合格率は5年連続100%です。試験詳細は本学ホームページに公開しています。

3月 MARCH

献血ボランティア活動

3月23日(日)に三宮センタープラザ周辺で、神戸市保健所、神戸市薬剤師会、学生の三者が協力して活動している「学生のヘルスケアを推進するネットワークづくり」事業による、献血への理解と協力を求めるイベントを本学学生が企画、参加しました。



6年生 山岡 玲菜さん

社会の献血に対する意識の薄れや、若者の献血者の減少を知ったことから献血活動を提案し、採用されました。活動では、イベント時に献血を呼びかけるボランティアスタッフを集めるチラシを近隣の大学へ配布したり、参加学生を管理したりするなど、募集係のリーダーを務めました。また、当日の配布物は、手元においてもらえるようクリアファイルに資料を入れることを決め、デザインも考えました。

イベントを終え、献血は、誰もが医療に貢献できる数少ない事例だと実感。また、自分の発言・行動が認められて活動に反映されたことに、やりがいも感じました。今後も献血の理解と協力を求めて、活動を続けます。



デザインしたクリアファイル(左)

4月 APRIL

第15回公開市民講座

午前の部は、薬用植物園を公開し、見学者にはハーブの苗の配布を実施。6号館2階ラウンジでは、地元東灘区から、東灘消防署救急隊員によるAEDの使い方の講習や東灘区薬剤師会によるおくすり・健康相談、アイグレイセラピストアカデミーによるアロマハンドマッサージやココカラファイン協賛による各種のヘルスアドバイスもあり、多くの方に参加いただきました。また、学生の実務学習を手伝っていただく「模擬患者(S.P)」募集コーナーなどを開催。午後の部は、東灘区医師会 清成則久氏、本学放射線管理室 安岡由美講師による講演を開催しました。参加された皆さんは熱心にお話を聞いておられました。

当日は生薬部も活躍しました。(P.18)



ココカラファイン協賛によるヘルスケアコーナー



東灘区薬剤師会による「おくすり・健康相談」

OKAMOTO MAP

本学の最寄り駅がある岡本は古くから学生の街として知られていますが、昨今では洗練されたおしゃれな街としても注目されています。また、橋上駅が完成し便利さも加わった摂津本山駅は、2014年秋「駅ナカ店舗」オープンを目指して工事が進められおり、街の魅力がさらに高まっていきそうです。そんな岡本の街を教職員や学生が案内します。



カフェ激戦区といわれているOKAMOTOの街
学生がおススメするお店をご案内

OKAMOTO案内人

気の合う友人と過ごす
かわいい街です。

5年生 北岡 千明さん

岡本の街はきれいで、おしゃれなお店やカフェが多く、ランチに行ったり、雑貨屋さん巡りをしたりして楽しんでいます。週に1回くらいは、クラスの友人と「お茶」しています。

入学するまでは、まじめな人が多い大学とイメージしていましたが、街と同じくらい、おしゃれでかわいい学生が多いです。将来の夢に向かって勉強や研究をしている時はもちろんですが、そんな気の合う友人たちと街で楽しく過ごす時間も、大学生活を充実したものにしてくれます。

★HAND IN HAND



輸入食材やかわいい雑貨などがそろっています

北岡さん お気に入りの OKAMOTO Picture



♥ MAgA COLLECTION
オーダーメイドでオリジナルのアクセサリを作ってもらえます



準硬式野球部 マネージャー
前列左から 須賀原 知世さん(2年生) 池田 優華さん(2年生)
大片 杏樹さん(3年生) 滝川 侑依さん(3年生)
上崎 未夢さん(3年生) 後藤 未沙さん(3年生)
黒井 美希さん(3年生)

クラブのみんなでよく行くのは居酒屋の「居心伝」。大勢で入れますし、何よりもワイワイできる!! 試合終わりや反省会・お疲れさま会などに利用しています。でも、私たち女子だけで行くのは、岡本らしい雰囲気があるカフェですよ。

♪「女子会」のときにはやっぱりココ



ハニーハウス スティブルフォードグリーン (Honey House Stableford Green)

私たちマネージャーだけで「女子会」をするときに利用するお店です。おしゃれでケーキが最高においしいです。

神薬大に入学して

大学生活・勉強について

薬剤師になりたいと、勉強や研究の環境が整っている神戸薬科大学に進学しました。4年生までは、毎日授業と実習が忙しく、テスト前は寝る間を惜しんで勉強するほど大変でした。5年生になり、研究室での研究活動の日々を過ごしています。

将来の夢・なりたい私

製薬企業でMRか、病院薬剤師になりたいと思っています。これから病院実習が始まるので、そこで多くのことを吸収してから、進路を決められたらと考えています。また、MRは主に医師を相手にする仕事なので、高度な質問にも対応できるよう勉強し、薬の知識をしっかり身につけたいです。



松家 次朗准教授

シュヌルバールト (SCHNURBART) ※阪急御影駅南へ5分 山手幹線沿い

♪ 家族もお気に入りのパン屋さんです

フランスパン系もおいしいですが、胚芽食パンは私のお気に入りです。菓子パンも値段が手ごろで、一つひとつ丁寧に作っているのがよくわかります。おすすめは「山食」です。山形になったトースト用のパンで、香りもよく、切り口が雪のように白く、ソフトできめ細かい。一度でファンになりました。私はパンが好きで、以前は自宅をよく作っていました。そういう経験からも「山食」の素晴らしさがよくわかります。家族全員がこのお店を気に入っていて、いつも何を買うか悩みます。プリンもご自慢のようですが、私はまだ食べる機会がありません。そうそう、コルネもおすすめですよ。



山食



コルネ

充実した学生生活を送り、自らが主体的に考え行動するクラブ活動は、学年を超えた多くの学生との交流を深め、豊かな人間性を身につけることができます。「チーム医療」の一員としての自覚を養い、コミュニケーション力を磨くことができる有意義な場でもあります。ほとんどの学生が、勉学に励みながら、クラブ活動にも積極的に参加しています。

水泳部

大会2連覇達成! チームで高め合いながら有意義な練習を行っています。



ハードな練習量をこなしながら、学問と両立させている頑張りやの皆さんです。本年度は男子が引退して、女子だけの部になっていますが、彼女たちなら有望な部員を増やしてくれると期待しています。

顧問
小山 淳子 教授



みんなといると自然と元気になります。周りの人のことを思いやれる仲間たちです



トロフィーとメダル、賞状とともに

活動内容

顧問 小山 淳子 教授 部員 6名

夏季は神戸大学海事科学部のプール、冬季は甲南山手駅前のセルパ内にあるトライアックスのプールをお借りして練習しています。



部長
3年生 崎尾 奈美さん

明るくて元気なばかりの、活気にあふれたクラブです。先輩後輩の仲が良く、団結力の強さが自慢です。普段の練習は、チームで高め合いながら、個々に立てた目標に向かって取り組んでいます。水泳は個人競技ですが、私たちはチーム全体で戦っているという意識を持っており、気づいたことがあれば伝え合うなど、互いに刺激し合っています。今夏は男女共、西日本コマメディカルの大会で2連覇を達成しました。今後もタイムを上げられるよう有意義な練習を続けます。ですが、部員が少ないため、部員を「大大大募集」しています。初心者、経験者に関係なく、水泳に少しでも興味があればぜひ水泳部に!!!

ひとこと

西日本コマメディカル学生水泳競技大会

医療系学生の大会。第12回は大分県別府市で開催。強豪校が集まるなか団結力を発揮して優勝! 連覇を果たしました。

戦績・活動報告

- 2013年 第12回 西日本コマメディカル大会男女総合優勝(2連覇)
 - 日本学生選手権水泳競技大会 2年連続出場
- 夏季は神戸大学体育会水泳部との合同練習。年に2回和歌山大学、神大水泳部(上記)との交流の場があり、他大学との交流も盛んです。

生薬部

多くの植物と出合える薬科大学ならではのクラブです。



本年4月から顧問になりました。薬用植物園などに足を運び、さまざまな植物に触れる時間を過ごして欲しいと思っています。また、地域の皆さまに生薬の魅力を発信する場として、部員が主体となり活動をさらに発展させて欲しいです。

顧問
西山 由美 講師



公開市民講座で、ハーブティーをふるまいました



活動内容

顧問 西山 由美 講師 部員 30名

活動日: 登山やイベントに向けて決定



部長
3年生 田淵 哲也さん

六甲山に登り、さまざまな植物に触れています。登山中に先生が植物の解説をしてくださるので、特徴など詳しく知ることができます。部活を通して得た知識は、実験で検証したり、大学が開催している公開市民講座で披露したりしています。今年の市民講座では「おいしいハーブティの試飲」をテーマに、来学された皆さんをもてなしました。

部員は、勉強とアルバイト、そして部活を両立させている、何事にも積極的なメンバーです。そんな部員たちと今年も六甲山に登る予定です。いろんなコースに登り、より多くの植物と出合いたいと思っています。

ひとこと

「沖先生のぶらぶら園内ガイド」

本学薬用植物園の沖課長と一緒に、植物を観察しながら散策する六甲高山植物園の人気イベント。詳しくは薬用植物園のホームページをご覧ください。

活動報告

公開市民講座 ▶P.12「神薬ごよみ」

大学生生活ニュース

Student Questionnaire

2013年度 学生実態・満足度調査の結果報告

自己点検・評価委員会 教務委員会 学生就職委員会

これまで4年に一度実施していた「学生実態調査」を、新たに質問項目数を100項目に増やし、「2013年度学生実態・満足度調査」として実施しました。本調査は、本学の教育や学生生活全般に関する学生の満足度を調査し、学生生活のさらなる充実に役立てることを目的としています。アンケートに協力いただいた学生の皆様にお礼を申し上げます。

調査実施概要

調査期間 ▶ アンケート配布:2013年 9月24～26日
 アンケート回収:2013年10月10～17日

調査対象者 ▶ 学部学生 1,750名(実務実習受講中の5年生は除く)
 回収件数 ▶ 1,118件 (回収率 64%)

調査結果の要約

授業

7割から8割の学生は教養科目、専門科目の授業科目は「充実している」と感じています。英語科目については充実していると感じている学生は5割以下のため、さらに詳しくアンケート調査を行い、その改善について検討を進めています。

教員の対応

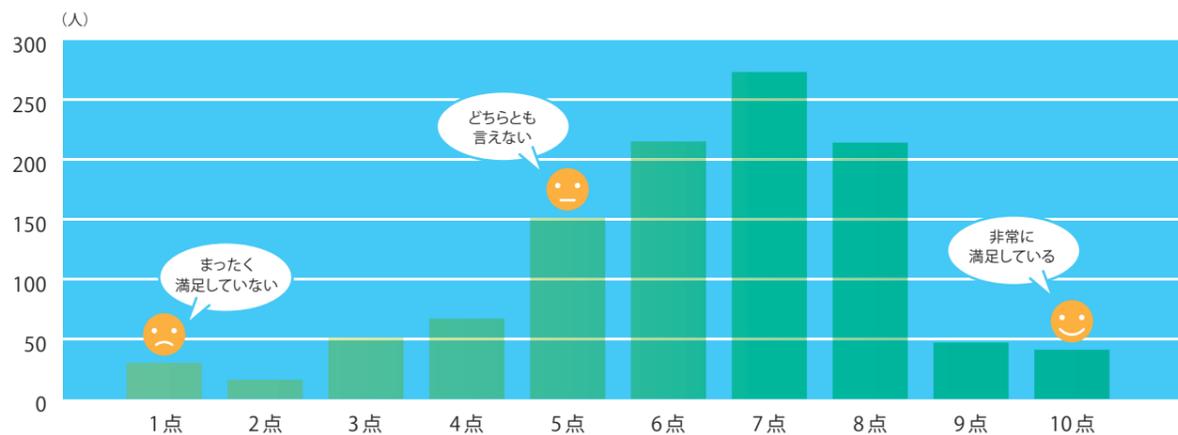
クラス担任教員や卒業研究での研究室教員の対応も8割を超える学生は「ほぼ適切」から「適切」と回答していました。

施設・設備

学生生活では、自習する場所が「足りない」(27%)、休憩場所が「少ない」(22%)が高い値を示しました。6号館食堂の大きさも「大体適切」から「適切」の割合が38%と低い値で、4月からの授業時間変更による昼食時の混雑度を調査し、混雑の改善方策を検討する必要があると考えられます。

総合評価

学生の神戸薬科大学への総合評価は下の棒グラフに示すように7点が最も多く、平均点は6.2点でした。この点数がさらに上昇するよう、今後より詳細に分析し、対応可能な要望事項については、自己点検・評価委員会から各種委員会及び部署に指示を出し、順次、改善を進める予定です。



病院実習、薬局実習

6年制薬学教育で長期間となった病院実習、薬局実習について6年生に質問したところ、「充実している」と感じている学生は約8割でした。

1日の学習時間

授業時間を除いた1日の学習時間が「1時間以下」の学生が66%と多く、授業の予習、復習の重要性についての学生の理解が必要であると考えられる結果でした。

Researchers

神戸で深める・薬学を究める ～ポストドクター紹介～

本学では、海外の優秀な研究者を受け入れ、研究のグローバル化を推進しています。本学で研究活動を行っている博士研究員(ポストドク)を紹介します。

神戸薬科大学を研究先に選んだ理由は?



Dr. Raj Kumar Nandi
(薬品化学研究室)

博士課程を修了した後も、さらにレベルが高く、評判の良い研究グループで研究活動を続けたいと考えていました。所属していた研究室の2人の先輩が、以前、神戸薬科大学でポストドクとして働いていたことから、宮田教授の研究室に応募しました。



Dr. Le Hoang Duy
(薬化学研究室)

2012年に政府の国費留学生として神戸薬科大学に留学し、博士の学位を取得しました。学位取得後も研究を深めたいと、その機会を探っていました。日本は、私の専攻分野である天然有機化合物探究の分野で進んだ成果を上げており、また、私も先の留学で研究成果を残していたことから、改めて、神戸薬科大学での研究生活を選びました。

神戸薬科大学の印象は?

基本設備と研究施設のレベルが高いうえ、教授と研究員がとても良好な関係を築いています。レベルの高い研究を行うためのすべての施設、環境が充実していてとても素晴らしいと思います。カフェテリアも魅力的ですね。

研究レベルの高さだけでなく、最新の設備と国内外の文献や書籍を保有する図書館が魅力です。優れた教授を中心に各研究室が活動しています。親切な同僚や研究仲間にも囲まれており、研究に専念することができます。

神戸薬科大学で研究を深めた、その先の目標は?

本学で研究能力と研究技術を向上させた後、Marie Curie FellowとしてParis Sud University(フランス)でさらに研鑽を積む予定です。その後は、「有機合成化学」を基盤とした自分自身の研究を探究できる大学での勤務を考えています。

帰国後はファム・ヴァン・ドン大学で教鞭を執っていますが、再来日しポストドクとして研究を続けています。神戸薬科大学の研究の前進に貢献できるよう知識と研究スキルを磨き、近い将来は、ベトナムの土地に根差した天然有機化合物を探究する研究室を立ち上げたいと考えています。

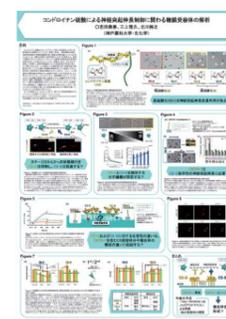
2013年後期 学生の受賞・表彰

学会や研究会などで研究成果を発表し、受賞を果たした学生を紹介します。



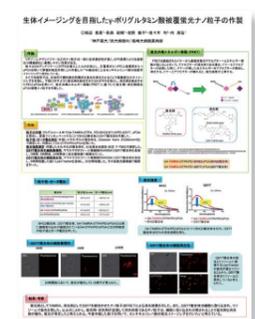
D1 志田 美春さん
(生化学研究室)

第63回日本薬学会近畿支部総会・大会(生物化学部会)優秀ポスター賞
 研究題目
 「コンドロイチン硫酸による神経突起伸長制御に関する糖鎖受容体の解析」



2013年度卒 畑辺 恵里さん
(薬品物理化学研究室)

第63回日本薬学会近畿支部総会・大会(物理化学部会)優秀ポスター賞
 研究題目
 「生体イメージングを目指したγ-ポリグルタミン酸被覆蛍光ナノ粒子の作製」



在学生も卒業生も、薬剤師を徹底サポート

「薬剤師」を鍛える

生涯学習支援が充実 エクステンションセンター

生涯研修プログラムに

「在宅医療」を支援する指導薬剤師養成プログラムをいち早く取り入れた背景

医療の高度化、急速な高齢化の進展に伴う医療環境の大きな変動により、患者居宅における医療職種の連携した医療提供の重要性が高まっています。薬剤師もチームの一員として多職種と協働し、専門性を生かした、質が高く安心・安全な医療を提供することが求められています。その教育プログラムは確立していません。

そこで、薬局薬剤師を対象に、専門的知識や技術を鍛え、薬物治療のリスクマネージャーとしての実践力を養成するため、地域医療機関で在宅実務実習・臨床研究に取り組む学部教育プログラムに、指導者として参画する指導力養成プログラムを有機的に組み入れ、生涯研修スキルアッププログラムを企画しました。

「在宅医療」を支援する指導薬剤師養成プログラムの特徴

生涯研修プログラムで実施する「薬剤師実践塾」において「在宅医療」をテーマにした研修会を実施します。各講座は実践と事例検討をグループワークで行うなど、現場に即した内容となっています。

また、薬剤師のためのメンタルヘルスに関する講座を設定し、他職種とコミュニケーションを図り、スムーズにチーム医療の一員として対応できる方法も考えます。さらに、垂水区医師会の協力を得て、診察室訪問・患者宅同行、看護ステーション・介護施設などの医療現場で研修を行います。ここでは、薬剤師以外の職種の業務や医療提供などを知ることで、多職種との協働の中で薬剤師に何ができるかを考えます。

実施中の「輸液調製」研修のポイント

2012年4月の調剤報酬改定の際に、無菌製剤処理加算の算定要件が緩和され、「無菌製剤処理を行うための専用の部屋」が無くても、その算定が可能となったことから、薬局が無菌製剤の調製にかかわる機会が増加するものと考えられます。そこで、2014年2月に本プログラムにおいて「注射薬の無菌調製演習」を実施いたしました。

【主な演習】

- 輸液の特徴や使い方、注意事項を中心に講義を行った後、モデル症例を提示して処方設計を行う。
- アンブルやバイアル製剤を用いて注射薬の扱い方を演習し、処方箋に基づき輸液の無菌調製を行う。

【演習を終えて】

参加者は、1人1台クリーンベンチ(無菌調製が行える装置)を使う充実した演習のもと、手技を学んでいただけでした。患者に最適な輸液調製の組み合わせを考えるなど、演習によって講義内容と臨床現場を結び付けることができたのではないのでしょうか。



「在宅医療」を支援する指導薬剤師養成プログラム「輸液調製の基礎と実践」実技実習

安心・安全な生活の提案のために患者さんの生活全般の問題点の把握と課題の整理、情報や経験を総合的に把握することで、多職種への効果的な提案もできることにつながると考えている。

薬剤師がもっと積極的に多職種に働きかけることや、退院時の在宅スタッフとの連携の必要性を強く感じた。

「在宅医療」プログラムに参加して～参加者の声～

コミュニケーション力をつけることが大事だと感じた。患者さんと向き合っ、本当に必要なスキルを磨くことが課題だと感じた。

医師・看護師・理学療法士・ケアマネージャーの方々の方々の能力の高さを感じた。薬剤師も医療チームの一員として、それぞれがスキルを身につけないといけないと思う。

NOTICE

2014年度前期 主な生涯研修支援プログラム

講座名	開催日	テーマ
第62回 リカレントセミナー	6/22(日)	疾患別病態・薬物治療と症例検討シリーズ⑨ 「腎障害時の薬物治療」
第7回 シンポジウム	6/29(日)	がんのチーム医療
第27回 薬剤師実践塾	7/12(土)・7/13(日)	「在宅医療」研修 患者・他職種とのストレスフリーなコミュニケーション術～タイプ別効果的なかわり方で仕事をスムーズに!～
第12回 健康食品講座	7/27(日)	健康食品に関する最近の話題と製品情報
第8回 卒後研修関東地区講座	9/7(日)	感染症をどう抑えこむか ― 予防と治療 ―

プログラム詳細は本学「エクステンションセンター」ホームページをご確認ください。

HYOUSHI TANBOU

表紙探訪

神戸薬科大学入学式

新入生を迎えた キャンパスを彩る満開の桜

2014(平成26)年度神戸薬科大学入学式を、4月2日(水)午前10時からききょうホールで、学部、大学院の新入生をはじめ、保護者の皆様、ご来賓の方、本学関係者などが出席し挙行了いました。

春らしい穏やかな天候に恵まれたこの日、満開の桜がキャンパスを彩りました。緊張の面持ちでキャンパスへの門をくぐる新入生でしたが、この桜の出迎えに笑顔がこぼれ、これから始まる大学生活への期待を膨らませていたようでした。

新入生は翌日からオリエンテーションが始まります。さまざまなことに挑戦しながら、より深く、より高度な学識を備えた「薬のプロフェッショナル」を目指すことを期待しています。

桜や入学式の看板などを背景に記念写真を撮る新入生や親子連れに、在学生たちが声をかけ、カメラマンとして活躍する姿もありました。



クラブ勧誘チラシを見比べる新入生



カメラマン役を買って出る在学生



入学式

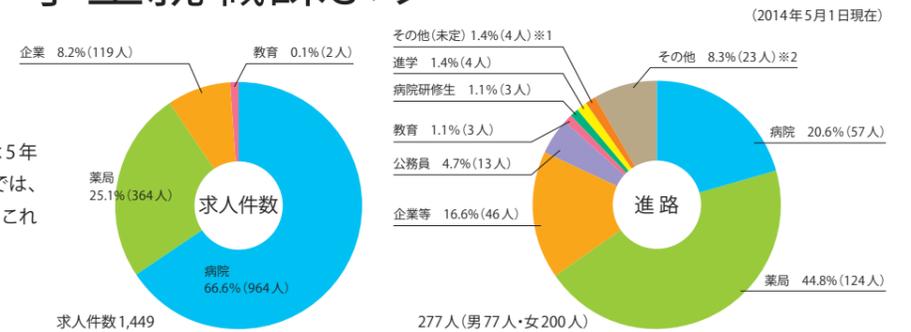
概要

- ◆ 2014年度学部入学生 298名(男子:95名 女子:203名)
- 2014年5月1日現在

お知らせ 学生支援センター 学生就職課より

2013年度 卒業生の就職状況

2016年3月卒業予定の学生の就職活動は5年生の3月から本格的にスタートします。6年生では、卒業研究、国家試験対策も重要です。就活は、これらを両立させながら行うことになります。



主な就職先

- 【薬剤師(病院)】
 - 西神戸医療センター
 - 一般財団法人 大阪警察病院
 - 済生会 広島病院
 - 大阪赤十字病院
 - 独立行政法人 国立病院機構 南和歌山医療センター
 - 健康保険組合連合会 大阪中央病院
 - 山口県済生会下関総合病院
 - 大阪府済生会 中津病院
 - 岡山大学病院
 - 医療法人鉄蕉会 亀田メディカルセンター
 - 独立行政法人 国立病院機構 京都医療センター
 - 香川県職員
 - 兵庫県職員
 - 国家公務員共済組合連合会 呉共済病院
 - 和歌山県職員
 - 高知県・高知市病院企業団(高知医療センター)
 - 市立芦屋病院
 - 国立循環器病研究センター
 - 宇和島市病院局
 - 島根大学医学部附属病院
 - 小豆町立内海病院
 - 財団法人 先端医療振興財団 先端医療センター
 - 西脇市立西脇病院
 - 独立行政法人 国立病院機構 中国四国ブロック事務所
 - 西脇市立西脇病院
 - 社会保険 徳山中央病院
- 株式会社 アカカベ
- 株式会社 オーバス サエラ薬局
- クオール株式会社
- 株式会社 ココカラファイン ヘルスケア
- クラブ株式会社 さくら薬局
- サンドラッググループ
- 株式会社 スギ薬局
- 総合メディカル株式会社
- たんぼば薬局株式会社
- 日本調剤株式会社
- 株式会社 阪神調剤薬局
- 【企業等】
 - アステラス製薬株式会社
 - アルフレッサ株式会社
 - イーピーエス株式会社
 - 大塚製薬株式会社
 - クイントラスト・トランスナショナル・ジャパン株式会社
 - 株式会社 再春館製薬所
 - 株式会社 沢井製薬株式会社
 - 株式会社 塩野義製薬株式会社
 - シミック株式会社
 - 株式会社 新日本科学
 - 株式会社 スズケン
 - 第一三共株式会社
 - 武田薬品工業株式会社
 - 田辺三菱製薬株式会社
 - 日本イーライリリー株式会社
 - 株式会社 ノエビア
 - バイエル薬品株式会社
 - Meiji Seika ファルマ株式会社

※1 就職する意思はあるが未定の者 ※2 就職する意思のない者・留学・自営・資格取得希望者

～学生の見た風景～



ボストンにて 撮影:北嶋 あゆみ、西川 幸江(研修参加学生)
2014年3月2日(日)～14日(金)